



たぐち・よしふみ
1942年東京生まれ。72年老荘思想による経営者育成、人材育成を行うイメージプランを創業。以来、2000社に及ぶ企業の変革指導を担う。一般社団法人「東洋と西洋の知の融合研究所」、「日本家庭教育協会」理事長も務めている。

—— 震災では、よく「想定外」という言葉が使われましたが、どう考えますか。

田口 江戸末期の儒学者・佐藤一斎の「重職心得箇条」には、まず「政事は大小軽重の弁を失ふべからず」という言葉があります。リーダーは軽重や前後の順番の判断を誤ってはいけなと書いてあります。

さらに、「着眼を高くし、惣体を見廻し」とあります。今回の震災ではこれがありませんでした。「惣体」とは全体のことです。大局観の重要性を言っています。そして「意中に成算を立て」、つまりこれから行うべきことについて、瞬時にプランニングでき、指示ができることが重要です。

—— 「着眼大局、着手小局」という言葉がありますが、よく似た言葉になりますね。

田口 その通りです。その意味で「想定外」などというものはありません。それは、着眼が低いということを自分で告白していると言ってもいいわけですね。江戸期には「応機」という言

葉がありました。「機」とは、弓矢を撃つ時にタイミングよく放すということです。タイミングを見て、臨機応変に指示が出せなければいけないのです。

その指示を出す時に、みんな話し合ったり合議していたら間に合いませんから独断で次々と指示を出す。「権力」とはその為にあるのです。だから権力者に不可欠なのが「人格」なのです。権力を持ちながら人格がないということになったら、国家や企業は混乱をして、何のためにリーダーがいるのかわからなくなります。

「想定外」と言わなければ、大事が起きたら、権力者は、その起きている事象と同じくらしい力を込めて権力を発揮しなければいけないのです。

リーダーシップの発揮に求められる「無私」の心

—— 権力者の責任は極めて重いし、また人格が伴わないと権力が行使できないということですね。

明治以来の実学偏重の教育では大震災の「想定外」に対応できない—— 「変革期のリーダーは知識や技術偏重では育てられない。今こそ人格・教養教育を」

大震災は人が生きることの原点とは何かを問いかけてくる——。「私たちは生き抜かなければならない。大震災で無念にも命を落とした人たちが自分たちの分まで生きてくれと呼びかけているからです」と田口氏は語る。そうしたリスクに襲われる今日にあって社会を引っ張るリーダーの役割とは何か。明治以来の実学偏重では限界があるというのが田口氏の考え方。人格教養の育成を眼目に置いた教育が必要という訴えである。

東洋思想家

田口 佳史 Taguchi Yoshifumi

リーダーに求められる 大局を見る視線

—— 東日本大震災が発生してから1年が経過しましたが、田口さんは、この災害をどう感じていますか。

田口 明治5年の学制発布以降、日本は西洋列強に追いつけ追い越せで、産業革命を短期間で済ませ、技術大国にならなければならぬという命題がありました。そうした国家のトップの方針は全て教育に反映されてしまいます。

ですから、江戸期は人格・教養でしたが、明治以降は技術・知識教育になったのです。江戸期の教育を受けて育ったリーダーが日清・日露戦争に勝ったのです。よく「明治の人はすごい」と言いますが、その人たちは江戸の教育を受けた人たちであることを忘れてはいけません。

では、明治の教育になってからどうなったかという点、陸軍・海軍の昭和エリートは技術・知識教育を受けた「技術者

エリート」になりました。ですから、戦争も技術志向で特攻隊や人間魚雷・回天など苦肉の策に陥り、大局観もないという状況になったわけですね。

何としても、日本の教育を変えなければいけないと、私はずっと主張してきましたが、相変わらず技術・知識教育が徹底されておき、人格・教養教育を顧みない人さえないという状況になっています。

その視点で、3・11の福島原発事故独立検証委員会の報告書を読んでみると、ぞっとすることばかりです。一つ象徴的に申し上げれば、菅（直人）総理（当時）の立ち居振る舞いやリーダーシップのあり方は、全て技術エリートとしてのものとしか言いようがありません。計数を気にして細かい指示ばかりしている。

まさに、昭和のエリートが大失敗をして、何百万人の民間人の犠牲を出しておきながら無条件降伏という情けない事態になったことと全く同じことをしているのです。

田口 ええ。「大臣重うして百事挙がるべく、物を鎮定する所ありて、人心をしづむべし」と書いてありますが、「有事」の時に何が重要かという時、みんなが慌てふためいている時に、いかにリーダーが泰然自若として、心を鎮めていけるかが問われます。震災の時の政府は、泰然自若でいなければならぬところ、茫然自失だったように見えます。

有事は平時の備えにありま

田口 リーダーを志す人間が、きちんと向きまえないければならぬのは、どんな状況になっても自らを失わないという状況を、自らに課さなければなりません。それが「不動心」です。この訓練をまずしなければいけません。孟子の言葉にあるのが「自ら反みて縮くんば、千万人と雖も、吾往かん」ということが不動心だと言っています。

また、リーダーは自分が信ずるところ、「正義」と「道理」に基づいて行動しなければいけません。また、「私」を捨て無私にならなければリーダーシップの発揮に難がでてきます。

田口 そうです。なぜかといえ「四書五経」が全国的に徹底されてきたからです。結論めいたことを言うようですが、基本的に今何が大切かといえ「急がば回れ」ということです。その意味は、教育を見つめ直す時に、外国の例を持ち出すのではなく、ほんの150年ほど前に大成した教育システムがあったではありませんかという事です。それをベースにして現代に適用していくことを考えるべきではないかと考えています。

「四書五経」を現代日本流に訳し直して、それを使った人格・教養教育、リーダーの育成をすべきです。技術・知識も大切ですが、人格・教養があつて初めて、技術も知識も生きてくるのです。

田口 私自身、「生涯学習」に深く関与していますから、東北の三陸地域には生徒がたくさんいるのですが、その中には悲惨極まりない話がたくさんあるのです。

例えば、ある男性がお母さんの手を引いて「お袋、もう少しだぞ！」と励ましながら山に向かつて逃げていました。津波が来ない場所まで来て、「これで助かったぞ」といって後ろを見たら、誰の手も引いていなくて自分の手を握りしめているだけだったという話があります。

また、ある女性が、後ろから多くの方の悲鳴が聞こえる中を2歳の子どもを抱っこして懸命に走って、「もう大丈夫だ」と思っ

田口 ええ。「大臣重うして百事挙がるべく、物を鎮定する所ありて、人心をしづむべし」と書いてありますが、「有事」の時に何が重要かという時、みんなが慌てふためいている時に、いかにリーダーが泰然自若として、心を鎮めていけるかが問われます。震災の時の政府は、泰然自若でいなければならぬところ、茫然自失だったように見えます。

有事は平時の備えにありま

田口 リーダーを志す人間が、きちんと向きまえないければならぬのは、どんな状況になっても自らを失わないという状況を、自らに課さなければなりません。それが「不動心」です。この訓練をまずしなければいけません。孟子の言葉にあるのが「自ら反みて縮くんば、千万人と雖も、吾往かん」ということが不動心だと言っています。

また、リーダーは自分が信ずるところ、「正義」と「道理」に基づいて行動しなければいけません。また、「私」を捨て無私にならなければリーダーシップの発揮に難がでてきます。

田口 ええ。「大臣重うして百事挙がるべく、物を鎮定する所ありて、人心をしづむべし」と書いてありますが、「有事」の時に何が重要かという時、みんなが慌てふためいている時に、いかにリーダーが泰然自若として、心を鎮めていけるかが問われます。震災の時の政府は、泰然自若でいなければならぬところ、茫然自失だったように見えます。

有事は平時の備えにありま

田口 ええ。「大臣重うして百事挙がるべく、物を鎮定する所ありて、人心をしづむべし」と書いてありますが、「有事」の時に何が重要かという時、みんなが慌てふためいている時に、いかにリーダーが泰然自若として、心を鎮めていけるかが問われます。震災の時の政府は、泰然自若でいなければならぬところ、茫然自失だったように見えます。

有事は平時の備えにありま



『四書五経』に基づく人格・教養教育を

よく「お天道様が見ている」という教えがありますが、それと同じですね。

田口 その通りです。ですから、「立腰」と「慎独」は、幼年教育の基本なのです。それに加えて孟子を読めば、「不動心」が養われていきます。

さらに、もう一つ申し上げな

田口 ええ。「大臣重うして百事挙がるべく、物を鎮定する所ありて、人心をしづむべし」と書いてありますが、「有事」の時に何が重要かという時、みんなが慌てふためいている時に、いかにリーダーが泰然自若として、心を鎮めていけるかが問われます。震災の時の政府は、泰然自若でいなければならぬところ、茫然自失だったように見えます。

有事は平時の備えにありま

田口 ええ。「大臣重うして百事挙がるべく、物を鎮定する所ありて、人心をしづむべし」と書いてありますが、「有事」の時に何が重要かという時、みんなが慌てふためいている時に、いかにリーダーが泰然自若として、心を鎮めていけるかが問われます。震災の時の政府は、泰然自若でいなければならぬところ、茫然自失だったように見えます。

有事は平時の備えにありま